

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第27週 (7/1-7/7) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		27週	26週	25週	24週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	7/1-7/7	6/24-6/30	6/17-6/23	6/10-6/16	6/24-6/30
			27週	26週	25週	24週	26週
小児科	RSウイルス感染症		7 0.39	0 0.00	10 0.56	1 0.06	19 0.14
	咽頭結膜熱		5 0.28	11 0.61	20 1.11	11 0.61	75 0.56
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		38 2.11	37 2.06	51 2.83	43 2.39	409 3.03
	感染性胃腸炎		95 5.28	106 5.89	97 5.39	105 5.83	633 4.69
	水痘		9 0.50	4 0.22	4 0.22	3 0.17	60 0.44
	手足口病	★★★◎	245 13.61	115 6.39	98 5.44	83 4.61	1045 7.74
	伝染性紅斑		16 0.89	23 1.28	21 1.17	11 0.61	124 0.92
	突発性発しん		20 1.11	16 0.89	11 0.61	11 0.61	69 0.51
	ヘルパンギーナ		33 1.83	22 1.22	7 0.39	2 0.11	145 1.07
	流行性耳下腺炎		5 0.28	6 0.33	5 0.28	3 0.17	18 0.13
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		1 0.04	0 0.00	0 0.00	5 0.18	15 0.07
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		2 0.40	7 1.40	1 0.20	3 0.60	21 0.62
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		1 1.00	1 1.00	0 0.00	1 1.00	2 0.22
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	1 0.11

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(18件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	80歳代	画像検査等	百日咳	男性	10歳代	抗体の検出
結核	女性	90歳代	病原体遺伝子の検出	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
結核	女性	90歳代	病原体の分離・同定等	百日咳	男性	10歳代	抗体の検出
腸管出血性大腸菌感染症	男性	60歳代	病原体の検出及びベロ毒素の確認	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
				百日咳	男性	60歳代	病原体遺伝子の検出
急性脳炎	女性	10歳未満	中枢神経症状等	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
梅毒	女性	50歳代	血清抗体の検出	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出	-	-	-	-

・第27週は、結核3件(97)、腸管出血性大腸菌感染症1件(3)、急性脳炎1件(8)、梅毒1件(19)、百日咳10件(72)、風しん2件(36)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

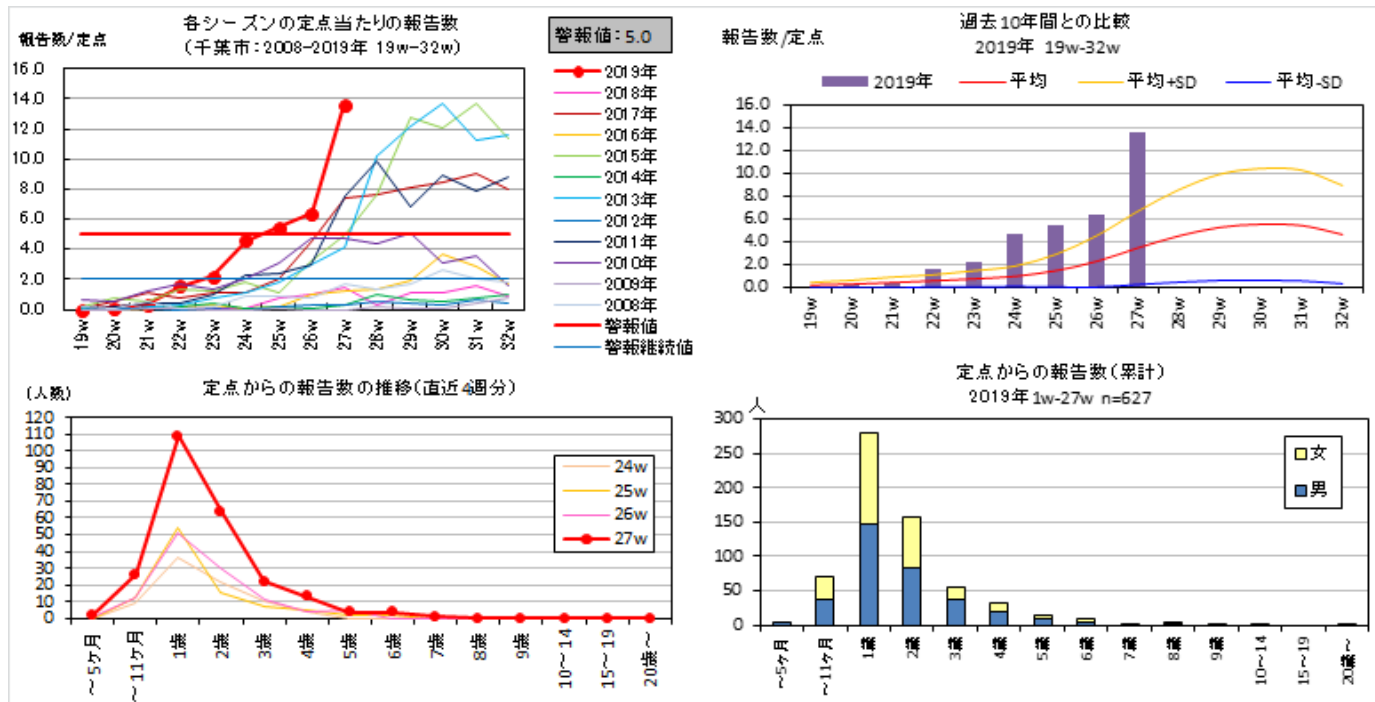
定点当たり報告数 第27週のコメント

＜手足口病＞前週より倍以上増加し13.61となった。流行発生警報開始基準値を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多のまま。区別の発生状況は、全区で流行発生警報開始基準値を上回っている。

■ トピック ■

＜手足口病＞

全国レベルの第26週の定点当たりの報告数は6.70となり、流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では福井県、鳥取県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は7.74で、全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の第27週は前週より倍以上に急増し13.61となりました。流行発生警報開始基準値を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。また過去10年の内、2013年第30週の13.72、2015年第31週の13.67に次いで3番目の多さとなり、大きな流行となっています。区別の発生状況は、全区で流行発生警報開始基準値を上回っており、若葉区(18.5/定点)で最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第27週までの累積報告数は627件で、性別では男性が54.5%(342名)、女性が46.5%(285名)となっており、年齢階級別では1歳(44.7%:280名)、2歳(25.0%:157名)、6-11か月(11.3%:71名)の順で多くなっています。



＜風しん＞

全国レベルの第25週の発生届累積数は1896件で、昨年の同時期と比べると40倍を上回っています。都道府県別では、東京都、神奈川県、千葉県及び埼玉県の順で多く報告されており、関東地方で多くなっています。千葉市では第27週に2件の発生届があり、2019年の累積数は36件となりました。性別では男性が80.6%(29名)、女性が19.4%(7名)となっており、年齢階級別では30歳代及び40歳代(共に33.3%:12名)、50歳代(11.1%:4名)の順で多く、30歳代～40歳代の男性が中心となっています。ワクチン接種歴は、無し又は不明が全体の8割以上を占めています。

